

第9期活動報告書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

I 委託事業

1. あしや市民活動センター（以下、活動センター）の指定管理業務

(1) 会館の管理運営業務（定款①）

・会議室A・B・C・Dを貸し出した。平均稼働率は59%であった。

	稼働日数	稼働回数	会議室 A		会議室 B		会議室 C		会議室 D		合計	
			回数	稼働率(%)								
4月	25	75	53	71%	58	77%	30	40%	41	55%	182	61%
5月	23	69	50	72%	50	72%	40	58%	35	51%	175	63%
6月	26	78	45	58%	43	55%	30	38%	31	40%	149	48%
7月	26	78	59	76%	45	58%	48	62%	50	64%	202	65%
8月	26	78	36	46%	10	13%	17	22%	31	40%	94	30%
9月	23	69	48	70%	31	45%	27	39%	28	41%	134	49%
10月	26	78	53	68%	35	45%	33	42%	31	40%	152	49%
11月	23	69	52	75%	37	54%	46	67%	55	80%	190	69%
12月	22	66	56	85%	43	65%	40	61%	40	61%	179	68%
1月	22	66	54	82%	45	68%	38	58%	44	67%	181	69%
2月	24	72	62	86%	44	61%	42	58%	50	69%	198	69%
3月	26	78	69	88%	58	74%	63	81%	52	67%	242	78%
合計	292	876	637	73%	499	57%	454	52%	488	56%	2,078	59%



・NPO 関連の図書、プロジェクター、折り機等機器を無償で貸し出した。

(2) 相談業務 (定款②)

【相談対応の状況】

<相談件数、時間とも大幅増加>

- ・相談件数の総数は241件、相談対応時間は7,270分(約121時間)である。
- ・前年比で相談の総数は32.4%増加、相談対応時間は17.4%増加している。
- ・各月別では9月から12月にかけて相談件数が多くなっており、もっとも多かった月は12月であった。
- ・昨年度、相談件数の多い月は2月だったが今年度は12月、逆に最も少ない月は、昨年度は12月で今年度は2月と逆転している。

<運営相談の倍増>

- ・相談内容の内訳は、団体の設立に関する相談が15件、団体の運営に関する相談が92件、登録制度に関する相談は4件、センター利用に関する相談は4件、ボランティア活動に関する相談は19件、ボランティアの受け入れに関する相談は7件、広報に関する相談は9件、行政からの相談は17件、自治会からの相談は6件、パソコン相談は33件、その他が35件である。
- ・もっとも増加したのは運営に関する相談の40%増で、行政からの相談とPC相談が若干増加した以外は、昨年度とほぼ同じ数であった。

<相談の方法、ルートの多様化傾向>

- ・相談方法の内訳は、来所による相談が156件(65%)、電話による相談は78件(32%)、メールによる相談は7件(3%)であった。
- ・昨年度と比べ、来所による相談は12%減り、逆に電話相談は11%増加した。
- ・登録団体からの相談は全体の40.5%であった。(昨年度は統計なし)

【分析】

<相談件数の増加の要因>

- ・相談内容の多様化および、細かな手続きに関する相談や情報を求める相談、また市民活動には直接関係のない、一般的な問合せもあった。センターの社会的認知度が多少は上がっているためではないかと思われるが、市民活動センターの役割や意義を踏まえての問合せではないものもあった。(例えばテレビで放映されていたイベントはどこで行われているか、マンションの水漏れの相談など)

<運営相談増加の要因>

- ・運営相談の代表的なものが助成金に関する相談だが、件数そのものは24件と昨年度(23件)とあまり変わらない。法務局、所轄庁へのなど法人として必須である具体的な諸手続きに関する相談や、定款、理事改選など、運営上の細かな疑問などの案件が多くなっている。
- ・前年度からの継続案件の対応も影響している。

<相談方法の多様化の要因>

- ・面談による相談が相変わらず多いものの、電話による相談も増えている。電話による問合せから、来所相談へとつながる案件もある。

【今後のアクション】

<センターの役割、意義の社会的認知度を高める>

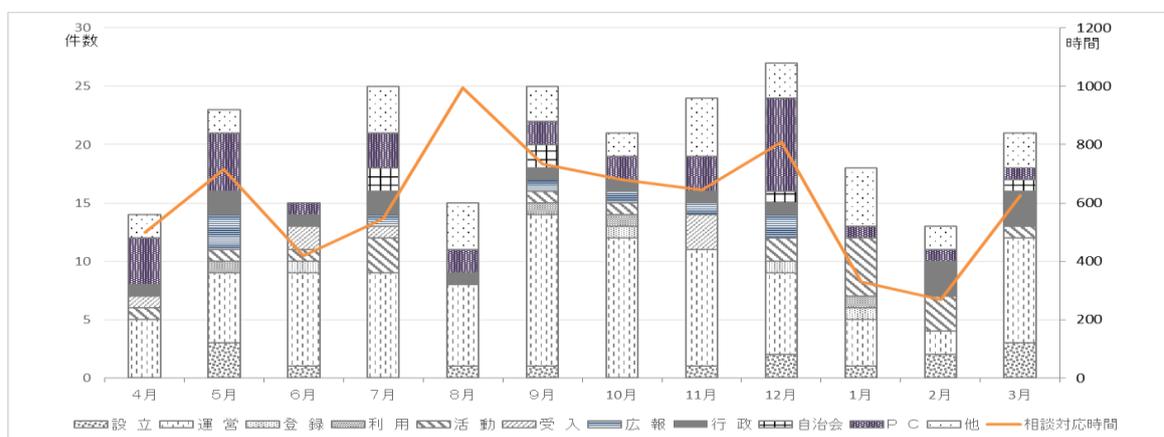
- ・ウェブサイトの再構築を機に広報戦略をたてる。

<相談対応力の向上>

- ・市民活動に関する幅広い情報収集能力、専門的な組織運営支援の力量、対応スタッフ全体の基本的な力量を向上させる。

平成27年度 月別相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
設立	0	3	1	0	1	1	0	1	2	1	2	3	15
運営	5	6	8	9	7	13	12	10	7	4	2	9	92
登録	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	4
利用	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4
活動	1	1	1	3	0	1	1	0	2	5	3	1	19
受入	1	0	2	1	0	0	0	3	0	0	0	0	7
広報	0	3	0	1	0	1	1	1	2	0	0	0	9
行政	1	2	1	2	1	1	1	1	1	0	3	3	17
自治会	0	0	0	2	0	2	0	0	1	0	0	1	6
P C	4	5	1	3	2	2	2	3	8	1	1	1	33
他	2	2	0	4	4	3	2	5	3	5	2	3	35
合計	14	23	15	25	15	25	21	24	27	18	13	21	241



(3) 市民活動団体の相互の交流とネットワーク支援事業 (定款⑤)

- ・ 4月4日、25日、5月2日、30日(土) 男性向けボランティア交流会を開催した。(報告9頁)
- ・ 7月25日(土) 第8回あしや市民活動フェスタを開催した。(報告10頁)
- ・ 9月19日(土) AED講習会を開催した。(報告15頁)

(4) セミナー事業 (定款④)

- ・ 4月4日(土)、5日(日) 学生向けボランティア養成講座を、芦屋さくらまつりの清掃ボランティア中に、ワークショップ形式で開催した。(報告16頁)
- ・ 第1回リードあしや自主講座企画応援事業において以下の団体の講座支援をした。(報告19頁)
 - 原発をなくそう芦屋連絡会 11月28日(土)、12月12日(土)、1月30日(土)
 - 芦屋「九条の会」2月27日(土)
 - 絵本で子育てセンター 1月14日(木)、28日(木)、2月13日(土)
- ・ 12月19日、1月30日(土) NPO・ボランティアグループのためのかきかた講座1回目「なるほど! 伝わるチラシの作り方」2回目「プロに学ぶ! 伝わる文章の書き方」を開いた。(報告21頁)

(5) 市民参画及び協働に関する情報収集と提供業務 (定款②)

- ・ ホームページで芦屋市の情報や、登録団体のイベント告知などの情報を発信した。
- ・ 活動センター内で、ラック・パネルなどを活用して団体情報を掲示している。
- ・ 市民活動関係図書を購入、整理を充実した。
- ・ 季刊紙「リードあしや」は29号を6月15日、30号を9月24日、31号を12月21日、32号を3月22日に発行した。
- ・ 2月3日(水) 芦屋市企画部市民参画課主催、市民参画協働推進会議で平成27年度芦屋市立あしや市民活動センター運営状況を報告した。
- ・ 登録団体紹介冊子の作成、発行した。

(6) ボランティアコーディネーション (定款⑦)

- ・ 4月4日(土)、4月5日(日)「芦屋さくらまつり」の、ボランティアコーディネーションを担った。(報告23頁)

(7) 調査・研究事業 (定款③)

- ・ 全登録団体の登録申請書及び、報告書の記入状況を見直した結果を踏まえ、申請書及び報告書の様式を改善するよう市に提案した。

(8) 市内中間支援団体交流事業 (定款⑤)

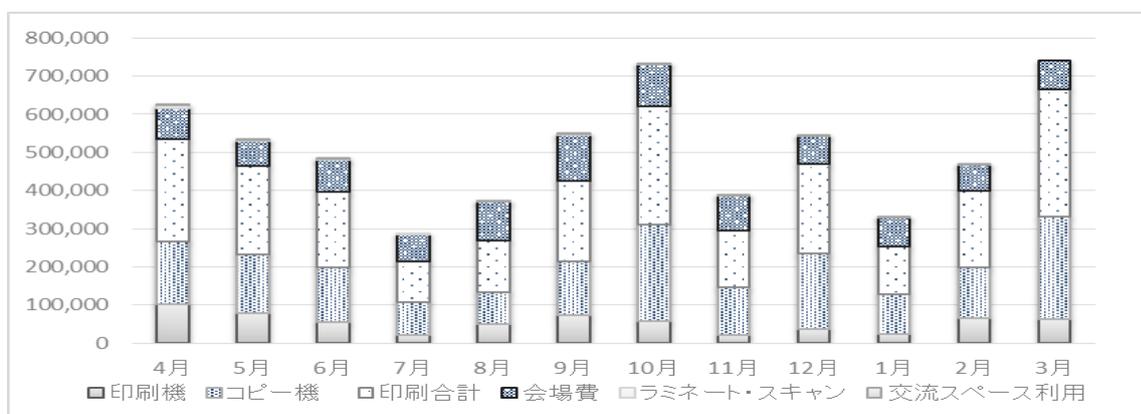
- ・ 9月17日(木)に中間支援組織の交流を目的とした会議を、あしや市民活動センターの指定管理者である当法人を含む3者(特活)芦屋市体育協会(芦屋市体育館)、(特活)芦屋市国際交流協会(潮芦屋交流センター)で開催した。

(9) 自主事業

- ・ 印刷機、コピー機を貸し出し、印刷に関する助言及び支援を行った。
- ・ 6月13日(土)に第1回市民団体交流会を開催した。(報告26頁)
- ・ 9月12日(土)に第2回市民団体交流会を開催した。(報告27頁)
- ・ 12月5日(土)に第3回市民団体交流会を開催した。(報告29頁)
- ・ 3月5日(土)に第4回市民団体交流会を開催した。(報告31頁)
- ・ 交流スペースで14団体25回作品の展示、販売の場を提供した。
- ・ 利用者のくつろぎの場として自動販売機を設置し飲食の販売を行った。

平成27年度 施設・備品利用料収入

	印刷機	コピー機	ラミネート・スキャン	交流スペース利用	合計
4月	102,577	164,600	6,840	3,000	277,017
5月	78,375	153,960	4,100	2,400	238,835
6月	53,856	144,130	480	800	199,266
7月	20,736	85,870	720	0	107,326
8月	49,362	84,400	40	1,600	135,402
9月	72,393	140,400	3,120	100	216,013
10月	56,632	253,494	1,000	1,200	312,326
11月	21,143	125,900	2,000	1,200	150,243
12月	36,578	197,640	120	300	234,638
1月	24,769	102,060	760	800	128,389
2月	64,562	134,622	1,060	200	200,444
3月	62,668	269,344	0	0	332,012
合計	643,651	1,856,420	20,240	11,600	2,531,911



2. 芦屋自治会連合会ホームページ作成および維持管理 (定款⑤)

- ・芦屋自治会連合会より受託し 38 回の更新を行った。内 1 回はウェブデザインに関するものであり、外部に委託した。

3. 芦屋市自治会連合会まちづくり懇談会事業 (定款⑦)

- ・11月27日(金)開催のまちづくり懇談会の議事録の作成をした。

4. 芦屋市人事課特別研修 (定款④)

- ・11月17日(火)芦屋市職員向けに市民参画協働についての研修を開催した。

5. 地域課題解決の仕組みづくり (定款⑦)

- ・あしや市民活動センター登録団体を対象にアンケート調査を行い、抱えている課題を分析し、対策案を芦屋市へ助言をした。
- ・3月5日(土)、課題解決に向けた取り組みを充実させ、実践の助言を得るために多様なセクターや分野で活動している団体が参画するアドバイザー会議を開いた。

II 独自事業

1. セミナー事業 (定款④)

- ・10月29日(金)法人向けにマイナンバー制度についての研修会を開いた。
(報告 31 頁)

2. 講師派遣事業 (定款④)

- ・6月1日(月) 神戸市社会福祉協議会 神戸市こころの健康センター 精神保健福祉ボランティア講座「ボランティア活動とは」ボランティアの魅力
- ・10月28日(土) 神戸市兵庫区社会福祉協議会 ボランティアセンター ひょうごっ子サポーター養成講座「はじめよう、学校生活支援ボランティア」

3. 他団体への後援・協力 (定款⑤)

- ・芦屋観光協会の芦屋川プロジェクトの一環事業として「芦屋川の歌 ときが流れる芦屋川」の制作に協力
- ・芦屋市福祉部社会福祉課の要請でネパール地震兵庫義援金募金箱を設置
- ・10月11日(日)あしや秋まつりのボランティアコーディネートを担当
(報告書 33 頁)

- ・ 11月29日(日) 東日本震災支援芦屋ユナイテッドドリレーマラソン 2015 に協力
- ・ 特定非営利活動法人アジア女性自立プロジェクトへの後援名義
- ・ 当法人のホームページを利用した市民団体の広報支援を開始

4. あしやNPOセンター通信(定款②)

- ・ 6月8日に6号を発行し、会員及び他団体へ郵送した。

5. (特活)あしやNPOセンターホームページの維持管理(定款②)

- ・ 市民活動団体の発信力、社会的認知を高めるために、イベント情報の掲載や動画をアップした

6. 団体間の交流(定款⑥)

- ・ 関西NPO支援センターネットワーク(KNN)に参加し情報交換を行った。
- ・ ひょうご中間支援団体ネットワークに参加し情報交換を行った。

7. 各団体の委員を担う。

- ・ 5月26日(火) 社会を明るくする運動の芦屋市推進委員会委員
- ・ 6月12日(金)、13日(土) 関西電力サービス懇談会委員として、黒部川第四発電所及び、堺火力発電所の見学
- ・ 7月31日(金)、1月28日(木) こくさいひろば芦屋主催「レインボー芦屋基金委員会」
- ・ 8月24日(月)、3月14日(月) 西宮市市民交流センター運営委員会
- ・ 社会教育委員の会議等
 - 9月4日(金)平成27年度近畿地区社会教育研究大会(奈良大会)
 - 9月24日(木)事務局との打合せ
 - 10月8日(木)教育委員と社会教育委員の意見交換会、第3回社会教育委員会議
 - 11月16日(月)阪神南地区社会教育委員協議会研修会・懇談会
 - 12月17日(木)芦屋市社会教育団体次年度事業検討のためのワークショップ
 - 2月19日(金)芦屋市社会教育登録団体研修及び交流会
- ・ 2月16日(火) 芦屋市地域福祉策定委員会
- ・ 3月24日(木) 芦屋市地域福祉計画推進評価委員会

8. 阪神南中間支援センター連携交流会（定款⑥）

- ・ 1月19日（火）芦屋市、尼崎市、西宮市の行政、中間支援団体、社会福祉協議会及び、兵庫県の職員を交えた「行政とNPOの市民参画協働推進会議」が開かれ、「芦屋市における課題解決の仕組みづくりについて」を発表した。

Ⅲ. 組織運営

1. 会員

- ・ 正会員：個人会員11人／団体会員8団体
- ・ 賛助会員：個人15人／団体会員6団体

2. 会議

- ・ 理事会
 - 4月23日（木）第1回理事会 総会開催内容討議
 - 8月28日（金）第2回理事会 市民活動団体支援助成金事業審議
 - 1月14日（木）第3回理事会 平成28年度事業企画事務局案審議
 - 3月17日（木）第4回理事会 平成28年度事業計画及び予算議決
- ・ 5月16日（土）に第9期定期総会
- ・ 事務局会議
 - 毎月1回全員出席で開催。毎朝10分程度の申し送りを兼ねた朝礼を行った。
- ・ 指定管理者企画会議
 - 毎月1回、市民参画課と受託内容の確認を行った。

3. 会員向け研修会及び、懇親会

- ・ 5月16日（土）開催。参加者は、正会員12人、賛助会員12人、行政3人、合計27人であった。

「男性向けボランティア養成講座及び交流会」報告書

- 1 事業名：指定管理セミナー及び交流会「ビデオ撮影ボランティアに挑戦!!」
- 2 参加者：9人（内女性1名）
- 3 実施日：平成27年3月7日（土）～平成27年5月30日（土）
第1回 「ボランティアとは…」(3/7) } 平成26年度事業
第2回 「撮影技術講座」(3/14)
第3回 「撮影したいもの打ち合わせ」(4/4)
第4回 「撮影会」(4/25)
第5回 「編集作業講座」(5/2)
第6回 「映像完成上映会」(5/30)
- 4 講演：第1回 motto ひょうご事務局長 栗木 剛（平成26年度事業）
第2～6回 芦屋チャンネル 4名
- 5 内容について
 - (1) 目的：団塊世代の男性の居場所づくりと、その後のボランティア団体の設立
 - (2) 検証：撮影技術や注意点の学びだけでなく、撮影を通して感じたチームワークの大切さ、団体活動していく上での役割分担など、今後の課題にも気づいたようだ。
 - (3) 実績：「あしや市民活動フェスタ」での活動報告をスタートに、今後「芦屋映像倶楽部あしぞう」（仮）として活動していく。
 - (4) 感想：まったくの素人だったのに、ここまでの映像ができたことに感動した。今後自主的に活動していくことに不安を感じているが、みんなで力を合わせてがんばっていきたい。日程が厳しすぎて大変だった。等参加者から感想をいただいた。
 - (5) 今後：自主活動をしていく中で相談事があれば、技術等の相談は芦屋チャンネルが、団体運営等の相談はリードあしやが支援していく。

以上



第1回ボランティアとは…



第2回 撮影技術



第3回 撮影したいもの



第4回 撮影会



第5回 編集作業



第6回 上映会

「第8回あしや市民活動フェスタ」実施報告

- 1 事業名 指定管理事業
- 2 従事者 26名：職員7名 ボランティア19名
(うち芦屋高校ボランティア部18名)
- 3 実施日 平成27年7月25日(土) 10時から16時
- 4 担当 奈良
- 5 内容 別紙詳細
 - (1) テーマ：新しい世界と縁を広げよう～市民活動の発表と団体間の交流～
 - (2) 目的：シニア層の市民活動をさらに充実、発展させ、すそ野を広げる
 - (3) 会場：あしや市民活動センター リードあしや
芦屋市立男女共同参画センター ウィザスあしや
 - (4) 内容：詳細P.7 (プログラム)
 - (5) 振り返り：P.9～P.11



第8回あしや市民活動フェスタ プログラム 7月25日(土) 10:00-16:00 ※事情により変更される場合もあります。プログラムへの参加は無料です。

場所/時間帯	10:00	12:00	13:00	14:30	16:00	
2F 会議室C・D	<p>オープニング ご挨拶(山中廣市長、福中俊彦市議会議員)</p> <p>落語と座談会 *手話通訳付き 「笑う顔には福がくる」 「素人寄席・天満天神の会」 天海孝芝楽(しばらく) 天神寺神山(かみさん) 天神寺樫丸(ちようく) 天神寺新千(すいせん)</p> 	<p>カフェスペース (コーヒー等の提供とお菓子の販売) 自由にお寛ぎください。</p> <p>声優の魅力を映像で ショートムービー上映 「声優映像倶楽部」</p>	<p>パネル展示と活動紹介 ・人形劇って面白い! 「あ〜ち人形劇みずすまし」 ・知ろう! 私たちの身近な難症のこと 「声優『九菜の会』」 ・やってみよう! 病院ボランティア 「市立声優病院ボランティア」 ・知ろう! セルフヘルプ活動 「(特活) ひょうごセルフヘルプ支援センター」 ・知ろう! フードバンク活動 「(認定特活) フードバンク関西」 ・兵庫県立声優高校ボランティア部 「声優美! 私たちのボランティア活動」</p> <p>団体PRタイム! 14:00~ 1団体5分ずつ、活動のPRをします。</p>	<p>「あしや市民活動フェスタ」と即興ワークショップ 「声優 Trio クラブ」</p> <p>フリースペース 休憩など自由にお使いください。</p>	<p>●やってみよう! 朗読ボランティア 「あしや市民活動フェスタ」と即興ワークショップ 「声優 Trio クラブ」</p> <p>●フリースペース 休憩など自由にお使いください。</p>	<p>●やってみよう! 朗読ボランティア 「あしや市民活動フェスタ」と即興ワークショップ 「声優 Trio クラブ」</p> <p>●フリースペース 休憩など自由にお使いください。</p>
2F 会議室A (12名)						
2F 会議室B (12名)	<p>託児コーナー 小さい子どもさんを預かります。 「保育グループ」にここに</p>					
2F 交流スペース	<p>伝えたい! 絵本の世界 「NPO 法人『絵本で子育てセンター』・絵本講師の会」</p>	<p>ランチスペース (おにぎりとお菓子の販売) 「おむすび屋えんじゆび」 事務局受付窓口で販売します。</p> 	<p>体験とショー 13:00~ 聞いてみよう! ハルマンハープ「アンサンブル・プチエリゼ」 13:45~ 歌ってみよう! なつかしのうた「声楽達すずらんコーラス」 14:00~ 歌ってみよう! プサルター「いきいき健康講座」 14:30~ みんなで楽しくうたう会「夢くらぶ」</p>	<p>●環境誌芝居「霞とどうぶつのおはなし会」 「(一財) 日本緑森協会」</p>	<p>●フリースペース 休憩など自由にお使いください。(飲食はできません) ペピーカーなども置いていただけます。(貴重品は置かないでください)</p>	
1F セミナー室 (48名) ※飲食不可	<p>水ロケットを作ってみよう できるだけペットボトル、牛乳パックをお持ちください。制作後、河原で試射もします。 「日本宇宙少年団八甲分団」</p>	 <p>水ロケット</p>				
1F 団体交流スペース ※飲食不可	<p>世界から宇宙へボードゲームで旅しよう ゲームはラダー&スネーク、ポーリング、曲書、宇宙すごろく、オセロの5つ。1回のゲームでスタンプ1個もらえます。スタンプ5個でラムネつかみ取り! 「日本宇宙少年団八甲分団」</p>					

子ども向けプログラム
一般・大人向けプログラム

●フードドライブ実施(フードバンク関西)
ご家庭に眠っている食品を募っています。
受付場所: 2F印刷室



●フェスタ運営ボランティア
兵庫県立声優高校ボランティア部

●撮影ボランティア
声優映像倶楽部「あしぞう」
*記録のための撮影をしています。ご本人の承諾なく外部に公開いたしません。どうぞご了承ください。

ありがとう

事実	成果（よかった点）	課題	次へのアクション（改善点等）
来場者数：220名 （一般・団体関係者含む） 市長、副市長、議長、議員3名	・混乱をきたすことなく、来場者の混雑もなかった。	・来場者層の充実（数、質とも）	・PRの工夫（下記項目参照） ・来場者カウントの工夫要（入り口で何かを必ず配る等）
センタースタッフ7名 （理事長、副理事長来場）		・時間になっても準備に来ない団体（2団体）の対応にスタッフが追われ、対応に苦慮した。 ・ボランティアとの協働でやや戸惑いがあったスタッフもあった。 ・理事長、森田副理事長以外に来場した理事がいなかった。	・ボランティアとの協働の実践を積む。 ・事前のオリエンテーションを充実させる。 ・センターのメイン行事である旨徹底。
ボランティア18名 （芦屋高校ボランティア部生徒16名、顧問2名） 芦屋みどり福祉会1名 手話通訳2名	・ボランティア部に事前に打ち合わせを兼ねて同校を訪問、説明を行ったところ、活動しやすかったと好評であった。 ・臨機応変に動き、多めにフェスタをサポートしてくれた。参加者の少ないプログラムには、実際に参加してもらったりした。おかげでプログラムも活性化された。 ・過不足、配置の問題点は感じられなかった。来場者が少なかったため、余裕があったといえる。役割、配置も交代制とし多様な持ち場を担当してもらったが、飽きずに活動してもらえたようである。準備、片付けなど力仕事に非常に助かった。 ・いつもシニア中心に動いている団体にとっては新鮮だったことと、聞き手としても参加してくれたことが良かった。	・高校訪問前の資料準備が必要であった。（先生との打ち合わせと思い準備しなかったため） ・時間不足で、ボランティアとスタッフとの合同オリエンテーションが実施できなかった。 ・ボランティアとの協働の経験があまりないスタッフは戸惑った。	・ボランティアの募集を1か所に絞ったことで、受け入れ側としても対応しやすかった。今後も可能ならば1か所に絞るほうがやりやすい。 ・今後はボランティアとともにイベント全体を考えるなど、企画のプロセスから参画してもらう。
昼食等：事務所窓口で販売 おむすび・惣菜（おむすびやえんむすび） お菓子（新生会、みどり福祉会）	・おむすびとお惣菜は個別で扱いやすく好評であった。生産者についての問合せがあった。イベントなどで仕入れたいとの声もあった。 ・作業所の製品のPRにつながったこと。作業所からボランティアが販売に参加した。	・売上見込みが多かったため、売れ残りが発生した。・資料などがなかったため口頭でのアナウンスとなった。・ボランティアが手持無沙汰になったため、他の活動に移動した。	・リーフレットなどを必ず準備してもらう。 ・別途販売ブースを設け、十分なスペースを確保する。
事実	成果（よかった点）	課題	次へのアクション（改

			善点等)
対象: シニア (と子ども)		<ul style="list-style-type: none"> ・集客が分散した。 ・ボランティアや市民活動に関心のあるシニア層としたが、実際はシニアの来場者は少なく、どちらかと言えば、若い親子連れが目立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットを絞る。 ・盛り上がった会場づくりのためにもワンフロアにするなど会場をコンパクトに構成する工夫が考えられる。
コンセプト: ボランティア活動の入り口になるような市民活動団体の紹介とした。	市民活動のすそ野を市民に広げるといふ根本的な意味が明確になった。	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトの浸透具合が今一つであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェスタの目的上は適当だと思われるので今後もベースのコンセプトは継続する。
会場構成: 主に1F子ども、2F一般		<ul style="list-style-type: none"> ・一つの会場で滞留、終了してしまい、他の会場への移動が乏しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者の流れ(プログラム間の移動)をもっと工夫する必要があった。
開催日: 7月25日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの子どもが参加しやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催時期が酷暑となり、外出を控えるよう促された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかな気候の時期を選ぶ。
メインプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・市民落語の座談会の内容は市民活動の意義やきっかけを考えるのに、シニアにとって身近な話題になった。聞き手との対話も生まれた。 		(落語をするならば)座談会の時間を長くする。
プログラム: ・市民落語と座談会 ・ショウ&体験(4団体) ・団体ブース(7団体) ・一般向け企画(2団体) ・子ども向け企画(7団体) *フードドライブ(フードバンク関西)	<ul style="list-style-type: none"> ・メインプログラムは想定より参加者が大幅に少なかった。 ・PRタイムは団体同士の活動について知ることができる機会になった。 ・フードドライブは食品17点(27キロ)集まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しむことと社会貢献を結びつける意図だったが、果たしてターゲット層のニーズには合わなかったか。 ・子ども向けには比較的参加者が多かったが、一般向け、と紹介の展示は人が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介だけでなく実際に体験できる、あるいは体験に近いようなプログラムも検討する。
PR、館内外掲示	<ul style="list-style-type: none"> ・館内の掲示がわかりやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幟の注文を思いっぴいてから発注まで手間取ったため発注が遅れ、間に合わなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も今年度作成分を活用する。
事実	成果 (よかった点)	課題	次へのアクション (改

			善点等)
<p>チラシ： 一般用と子ども用版を作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども向けには小学校 8 校全学童に配布 一般向けにはDM、J R 芦屋駅構内の配架、市内掲示板への掲示、市役所内各箇所に掲示 登録団体向けにDM <p>当日プログラムを作成 (300 部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子ども向けプログラムのチラシを作成し、PR には一定の効果があった。 どこでなにが何時にあるかプログラムのスケジュールの詳細がわかりやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども向けの広報で一部効果があったかと思われるが、その他はほとんど効果がなかった。 市掲示板のポスターは B4 では小さく見にくい。 当日プログラムは自由にとってもらうことにしていたため、気づかなかった人も多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 場に応じてポスターのデザインをもっと目を引くものにする。 参加団体が積極的に参加者を集めるよう条件づける。 市にもっと広報をしてもらうこと (ウェブサイト、広報あしやなどの掲示の仕方について) 行政のルートだけではない広報ルートの工夫 (記者クラブではなくプレスリリースで、ケーブルテレビ、無料の掲示板、スーパーやコンビニなど、)
<p>ウェブサイト： ・リードあしや、あしや NPO センターの両方に掲示、芦屋市ウェブサイトに掲示</p>	<ul style="list-style-type: none"> 誰でもどこからでもイベント情報を確認可能に。 	<ul style="list-style-type: none"> アップするだけでは訪問者は乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブサイトのリンクを積極的に行う。 参加団体や関係団体のウェブサイトにリンクを貼ってもらう。
<p>その他 PR： 交流スペースにプログラム詳細を 4 日間掲示 (フェスタウィーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市記者クラブへの広報依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 当日もそのまま使える PR 資料となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 記者クラブの反応はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> フェスタウィークは次年度も継続。 一般のプレスリリースと同様にメディアに直接ファックスする。

「団体向けAED講習・交流会」報告書

- 1 事業：芦屋市指定管理事業（スタッフ研修も兼ねる）
- 2 参加者：4団体11名（見学者1名）
- 3 実施日：平成27年9月19日（土）13時30分～16時00分
- 4 担当：出口
- 5 内容について
 - (1) 目的：応急処置（AED使用方法含）と、様々な活動の中で緊急時の対応を学び、団体同士の交流も兼ねる。
 - (2) 内容
 - ・芦屋市消防本部救急課4名に来ていただき、講義と講座を受ける。
 - ・芦屋市消防本部の現状・救急出動体制について話を聞く。
 - ・心肺蘇生の手順を学び、2つのグループに分かれ、実技を行う。
 - ・AEDの使用方法を学び、AEDを使用しながらの心肺蘇生の実技を行う。
※救護者の安全確認→意識確認→協力者を集め、1人には119番通報をして戻ってくることを伝える→呼吸の確認→心肺蘇生①胸骨圧迫30回②人工呼吸2回（無理にする必要はない）①②を繰り返す。
AEDがあれば、心肺蘇生をしながらAEDを使用する。（AED装着の際も、心肺蘇生は止めない）
 - ・その他の応急処置を習う。（窒息、出血の止血、骨折、やけど、熱中症等）
 - ・質疑応答
 - ・会議室Cの使用時の避難経路を確認しながら帰ってもらう。
 - (3) 参加者の感想
 - ・昨年も参加したが、1年で忘れていた。定期的に参加したい。
 - ・心肺蘇生法、特に胸部圧迫は高齢者にとっては、とても大変、少し不安に感じた。
 - ・AEDの使用方法は難しいと思っていたが、実際使ってみると意外と簡単だった。
 - (4) 担当者の感想
 - ・当日連絡なしでの欠席があった。
 - ・人数が減ったことで参加者が実技に取り組む時間がゆっくり確保できたので、15名までで実施することが望ましいと感じた。

- ・高齢者が参加する場合は、実技指導について消防本部と相談し配慮が必要である（胸部圧迫などの回数を減らすなど）

(5) 今後の対応

今年度より芦屋市内のAED設置場所が増えた。救命技術を取得している人を増やし、小さな力ではあるが市民を助ける大切な力として育成していくため、今後も継続していく。



学生ボランティア養成講座報告書

- 1 日時：平成27年4月4日（土）、5日（日）
- 2 対象：クラーク記念国際高等学校の生徒、先生
4月4日：53人 4月5日：32人
- 3 活動内容：

(1) オリエンテーション

活動前にボランティア受付テントで集合、道具の受渡し、活動趣旨、内容の趣旨を説明。

(2) 活動目標を立てる

生徒で、2人1組（3人1組）になり、A3用紙を四つ折りにして、上半分に自分の名前と今日の活動目標を書かせる。（5分間）

(3) 活動目標を書いたら、自分が書いた活動目標をグループ内で発表し、メンバー同士で共有する。

(4) 清掃活動（40分間）

(5) (4)の振り返り&休憩（20分間）

(6) 振り返りを踏まえての清掃活動（40分間）

(7) (2)で立てた目標の振り返りを行う（5分間）

活動内容を振り返ってみて、自分が立てた目標に対して、どれだけ達成できたか、組になってみて、お互いに良かった点、悪かった点、気付いた点を用紙

に書いた。

(8) (5)の内容をグループ内で共有し発表する。

(9) 全体終了。

【1日目】

- ・さくらまつり一日目は、クラーク記念国際高等学校の生徒、総勢 53 名(5 グループ)が出席した。
- ・学校の先生方も、各生徒のグループに付き添いで生徒の様子を見ながら、清掃活動に参加した。
- ・午前から昼ごろまでは、晴天だったが、夕方は雨天になり、清掃活動をしながらか会の椅子や机の水滴をタオルで、ふきとりながら活動をしていた。
- ・主に生徒が設定していた目標は、「ゴミを多く集めたい」「芦屋をキレイにする」「来場者が楽しくいられるようにする」等の目標が多く書いていた。
- ・実際に清掃活動を終わって見た感想は、「ゴミを多く拾えた」「来場者に感謝された」等の感想が多く見受けられた。感謝されることに、意義を感じてやりがいをもって活動をしていたように感じた。

【2日目】

- ・生徒、総勢 32 名(4 グループ)が出席した。
- ・さくらまつり 2 日目は日中雨天で、来場者も少なく、ゴミも前日に比べるとあまりなかったため、机と椅子の水滴をふき取ることを主に行った。
- ・また、雨合羽を持ち物として伝えていなかったのも、傘をさしながらの清掃はやりづらかったように感じた。
- ・主に目標の内容としては、1 日目の生徒の内容とほぼ一緒で、ゴミを拾い、きちんと分別したいとの意見が多くあった。
- ・ごみを回収するだけでなくきちんと中身まで見て、分別して清掃していて、来場者に感謝されたりして有意義に感じていたと思う。

<活動風景>



【全体的な所感】

<良かったところ>

- ・生徒が意欲的に取り組んでいた。
- ・来場者に好評を頂いていた。
- ・体調不良者や傷病者が出なくてよかった。
- ・ワークでの総括では、お互いのことをよく見ていて感想や意見を書けていた。
- ・ゴミの分別も意識して、清掃していた。
- ・お互いに集団で、行動がとれていたと思う。

<気になったところ>

- ・グループ内で、組に分かれていたのに、組で行動していないところがあった。
- ・スタッフがもっとグループに付き添って、清掃活動を見てあげて、アドバイス等のサポートをしてあげればよかった。
- ・もっと生徒さんとコミュニケーションをとればよかった。
- ・音響舞台に近かった為、音が大きくワーク中に声が通らず、聞こえづらくなった。
- ・時間通りに集合しないグループがいたりして、時間の予定が前後したり、清掃の予定が短くなったりした。
- ・休憩中に携帯電話を使用したりして、グループ内での振り返りが、不十分などころがあった。

<総括>

- ・ゴミの少ない時間帯(開店前)に清掃をやっても、ほとんど効果が無いように感じた。
- ・特に晴天の場合、机や椅子の水滴等をふき取る作業が出来ないので、来場者が多い時間帯(昼前から夕方)に活動する方が、効果的ではないかと感じた。
- ・生徒が落とし物を拾った際の旨を、こちらから伝えていなかったのも、警察テントに持っていったり、ボランティアテントに持って帰ってきたりということがあったので、対応を統一するべきだった。持ち物として、雨具を持ってくるように学校側に伝えるべきだった。
- ・ワーク中に目標を決める際に、難しく考えている生徒が多かったので、簡単に考えるように促すべきだったと思う。

平成27年度(2015年)第1回リードあしや自主講座企画応援プログラム 報告書

1. 実施概要

目的：地域の課題解決に資する講座企画を支援することで、団体の育成を図る。

対象：あしや市民活動センター登録団体

期間：平成27年9月～平成28年3月

方法：講座企画を公募し、選考を経て3団体を採択。財源支援に加え、センター職員が企画案のブラッシュアップや効果的な広報の打ち出しを通じて、より効果的な講座づくりを支援する。

応募数：8件(7団体) 採択数：3件(3団体)

採択団体：芦屋「九条の会」、NPO法人「絵本で子育て」センター、
原発をなくそう芦屋連絡会

評価方法：

下記の6つの観点について、市およびセンター職員3人が5段階で評価し、評価者の合計点を比較して原則選考した。

- A 本プログラムの趣旨に沿っているか
- B 団体の趣旨に沿っているか
- C テーマ設定の妥当性があるか
- D 社会的ニーズに合致するか
- E 社会的インパクトはどの程度あるか
- F 費用は妥当か

2. 支援内容

「企画運営のアドバイス」、「広報支援」、「資金支援」、「講座運営支援」から応募団体が選択

① 企画運営のアドバイス

「支援シート」

団体ごとに面談、話し合いの内容をもとに支援シートを作成。企画の立て方、スケジュール、ポイントを確認しながら、協力して具体化した。

「講座実施報告書」

講座終了後に報告書を提出してもらい、講座を今後につなげる視点で面談しながら振り返りを行った。

② 広報支援

ちらしのデザイン、広報の方法、ニュースリリース方法の具体的な助言を行った。

③ 助成金

1 団体あたり 3 万円を支援。講師料等に充てられた。

④ 講座運営支援

1 団体に参加申込受付事務を支援した。

3. 各団体の講座

団体名	日程	講座名	参加者数
芦屋「九条の会」	2/27	<u>憲法講座「憲法って難しい?いいえ、暮らしの知恵がいっぱい」</u>	62名
NPO 法人「絵本で子育て」センター	1/14	<u>大人のための絵本の世界</u> ①絵本の絵とことばが伝えてくれるもの	13名
	1/28	②電子メディア時代の絵本の力	14名
	2/13	③ことばの力大人同士のことばのコミュニケーション	5名
原発をなうそう芦屋連絡会	11/28	<u>再生可能エネルギーについて考える</u> ①再生可能エネルギーの重要性	33名
	12/12	②電気を作る市民からの報告	23名
	1/30	③めざそう!再生可能エネルギー中心の日本	56名

4. 成果

- ・どの団体も講座を通じて、従来の関心層や支援者だけではなく、若い世代など新たな人に参加者を広げたいという意向だった。大きい変化は難しかったが、初めて参加する人も一定数あり、すそ野が広がった。
- ・広報の全般、とくにチラシの打ち出し方、プレスリリースのポイントなどの助言を通じて、団体にとってこれまであまり意識していなかった方法を実施し、自らの広報戦略見直しにつながった。
- ・各団体のメンバーと面談を繰り返す中で、センターと団体とが互いに知りあうことになった。センターのできることに、役割について団体側の理解も深まった。

5. 今後の課題・対応

- ・応募団体があまり多くなかった。応募を促すような仕掛けを検討したい。
- ・申請団体の中には、基本的な申請書の書き方が分かっていない団体も見られた。申請書のフォームをわかりやすく改訂するとともに、記入例を付けるなどの工夫をしたい。
- ・センター職員からの助言や支援が団体内部で共有されにくいこともあったり、担当者が一本化されなかったため、やり取りが遅れたりという問題があった。団体内部の共有を促すよう働きかける必要がある。
- ・申請書だけでなく、支援シート、講座報告書のフォームを改善し、次年度も継続する。

NPO・ボランティアグループのためのかきかた講座 報告書

- 1 事業名：指定管理業務「講座」事業
- 2 実施日：①平成27年12月19日（土） ②平成28年1月30日（土）
- 3 担 当：奈良雅美
- 4 参加者数：①11名 ②13名 （定員各15名）
- 5 目的：思わず全部読みたくなるニュースレターをどう作るか、人を集めるチラシはどんなのがいいのか、プレスリリースはどうすれば適切なのか、場面ごとに適切な文章の書き方が分からない団体の方向けに、団体の発信力を高めるための書く力をつけてもらう。

6 概要：

① なるほど！伝わるチラシの作り方

講師：入江陽子さん（特定非営利活動法人市民事務局かわにし）

内容：伝わるために必要なこととして「情報整理」「親切的レイアウト」「言葉遣い」の3点を挙げ、具体的な事例も使ってそれぞれのポイントを説明された。後半では講義で聞いたことをもとに参加者が持ち寄ったチラシをお互いでアドバイスしあった。

② プロに学ぶ！伝わる文章の書き方

講師：畑野士朗さん（神戸新聞社阪神支局）

内容：どんな文章が伝わるのか3つの鉄則「読者を想定する」「見出しを決める」「短く」を挙げてそれぞれ解説、作文の技術についてのポイントも5つの点から説明された。参加者から添削希望のあった文章を見ながらよりよい文章にするためのコツを示した。

7 評価：

- ・アンケート結果から参加者の満足度はいずれも高かった。
 - ①よくわかった8人 だいたい分かった2人
 - ②よくわかった8人 だいたいわかった3人 未記入1人

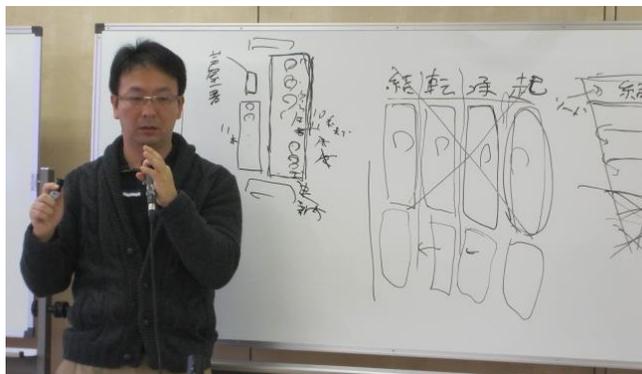
8 担当振り返り：

- ・①の講師は講演経験もあり参加者の聞きたいことを要領よく解説しレジメも見やすかった。聴こえのよくない参加者もいたため、マイクを準備すべきだった。
- ・②の講師は、要領よくポイントを解説されたためわかりやすかった。時間が予定終了時刻を30分近く超え、質疑応答ができなかった。時間配分も打合せしておく必要があった。事例を多く取り上げ丁寧に改善ポイントを示すとよかった。

9 今後の展開：

- ・好評を得たこと、ニーズも感じられたので次年度も同じ講師で開催する計画である。今年度の経験を踏まえて、ワークなどもより工夫して講座を組み立てたい。

講座①の様子 (12月19日)



講座②の様子 (1月30日)

芦屋さくらまつりボランティアコーディネート事業報告書

1 事業名：芦屋さくらまつりボランティアコーディネート事業（指定管理業務）

2 実施日：平成27年4月4日（土）・5日（日）8時～23時

3 参加者：185人 12団体（626時間）詳細は別紙参照

4 活動内容

(1) 目的：まつりの目的である「ゴミのない、きれいな芦屋さくらまつり」を目指し、なおかつ、ボランティアの方々にも達成感を持っていただけるためのコーディネートを行う。

(2) 検証：毎年、ボランティア参加者が増加傾向にある為、一人一人が目的意識を持って活動できるような工夫をさらに考えなければならない。

(3) 課題：

ア コーディネーションに関して

- ・活動時間の調整をするために説明会を行い、配置調整を行ったが、ゴミの集まり状況とあっておらず、多すぎたり少なすぎたりがあった。
- ・ゴミ箱からゴミを集める、道路のゴミを集める、テーブルを拭く等、臨機応変に活動を行うことを伝えることが難しかった。
- ・ボランティアコーディネーションもまつりの企画段階から参画必要。ボランティア活動からのフィードバックが反映されず、次へのよりよいボランティアプログラムにならない。
- ・小学校低学年の参加希望者があり、保護者同伴ということで許可をしたが、飲酒ありの人混みでの活動に対しては危険がある。
- ・弁当の配布について、昼食時に来られた人や、同じ団体の人が受け取るのを見て所望される場合があった。時間の制約、条件等を事前に徹底する必要がある。
- ・現場のコーディネーターがいない時間帯があった。役割が把握されていないように感じた。職員間の共有を前日までに再確認しておくことが重要だ。
- ・クラーク国際高等学校生の参加者が毎年増加しており、今年度は急きょボランティア講座としてワーク形式で受け入れたが、次回からは方向性を決め、対応する必要がある。

イ 会場等設備に関して

- ・ボランティアブースは、昨年から交流を持てる広さになり盛況であったが、地面の傾斜が酷く、三半規管の不調を訴える人が数名いた。

- ・ボランティアブース内がステージすぐ横だったので出演者の通路となりひっきりなしの往来があったこと、大音が響きオリエンテーションの音が聞こえにくい時があったこと、ブースの一部が楽器置場になったこと、活動現場とブースが離れていることの点からボランティアブースとしては使いにくかった。
- ・汁を捨てる際、男子便所内の清掃室のみと誘導され、女子職員は入り難く、捨て場所に困った。
- ・ブース使用者の中に、ゴミ箱に捨てる者がいた。途中注意勧告が出されたが徹底できなかった。
- ・立ち入り禁止の表示およびロープ、ポールを設置場所が曖昧であった。
- ・市より渡された無線が聞きづらく利用価値がなかった。
- ・4月5日(日)時間外利用で市民活動センターが開いていたため、開館されていると思われ、休憩に来られた人が数名いた。

(4) 今後の対応

ア コーディネーションに関して

- ・学生向けにボランティアの心構えに始まり、本日の活動をどのように行い、結果はどうだったか等の振り返りまでを一貫して行う。(オリエンテーション→活動→振り返り)
- ・対応許容数があるため、団体参加の生徒の数をできれば制限する。
- ・ボランティアプログラムのバリエーションを作る。(事務局、警備、子どもを受け入れるなら親子向けプログラムなど)
- ・ボランティアが単なる無償の清掃者ではなく、次へつながるボランティア活動の機会となるようなプログラムにする。
- ・ゴミを集めるだけではなく、責任あるボランティアの姿勢を理解していただけるよう簡単なオリエンテーションを事前に持ち、活動後の振り返りも開催できるようにする。
- ・リスク管理の点から年齢制限を設けたい。
- ・ボランティア保険への加入を促す。
- ・一般の方にも参加いただける広報の方法を考える。
- ・ボランティア活動後のアンケート実施を検討したい。
- ・活動の基本、注意事項等を盛り込んだボランティアハンドブックを作成する。
- ・清掃以外に受付等ボランティアブースを担うボランティアを公募したい。



イ 会場設備に関して

- ・ボランティアブースは、今年度は茶菓を用意し、憩いの場となったこと、オリエンテーションと振り返りにも必要なため、来年度も用意する。
- ・ボランティアの拠点としてあしや市民活動センターを開館し、当日来られた方のオリエンテーション及び交流の場、さらにはボランティア講座を開催できる場とする。
- ・ブース出展者のゴミの集積所への出し方が酷いところがあった。最終日はボランティアスタッフが集積所に立ち指揮したほうがよい。
- ・ゴミの分別は「可燃」「不燃」だけでなく、「缶」「瓶」「ペットボトル」「可燃」「プラスチック」に細かく分けるほうがよい。
- ・まつり会場は協議会と今年度の課題をもとに協議をし、ゴミを捨てにくい、持ち帰りを促す工夫を考えていきたい。
- ・「可燃ゴミ」「不燃ゴミ」に表示は目線の高さで、なおかつピクトグラム等、誰でも分かるものにしたほうが良い。
- ・ゴミ箱は「可燃ゴミ」「不燃ゴミ」それぞれ1個ずつ設置したほうが、捨てる側も、ボランティアする側もわかりやすい。1個ずつが難しいのであれば、ゴミ袋の色で分けるなど、一目でわかるようにすべきである。



第1回「私の悩みとあなたのヒント」情報交換・団体交流会 振り返り・報告

日時：2015年（平成27年）6月13日（土）10時から12時05分

会場：リードあしや会議室A

参加者数：9名（8団体）

内容：自団体・自己紹介、課題の共有、解決のアイデア交換、振り返り

【出された課題】

- 1 参加者が少ない
 - ・老人会への参加減った ・土日の参加が少ない ・人が集まらない
 - ・40、50代の参加が少ない（子どもを優先してしまう）
 - ・子どもが集まりにくい（塾通い、習い事で忙しくなってやめてしまう）
- 2 活動を知ってもらえてない
 - ・会の存在が知られていない
 - ・行政が地元の団体を大切にしない（他地域の団体を優遇する？）
- 3 後継者、若い世代の育成
- 4 その他
 - ・知られたくない問題を抱える人同士をどのようにつなぐか
 - ・全国の会との付き合い方
 - ・遠方で出かけられない人をどうつなぐか

【出された解決のアイデア】

- ・地域のリーダーを見出す、育てる→団体、自治会の活動を活発にするために
- ・インターネットの広報だけでなく自分たちから足を運ぶことも大事。
- ・出会う機会をう作ること。
- ・老人会という名称ではなく、別の名称にする。
- ・自治会の中には「老人会」の集まりに40代の人でも喜んで参加しているケースもある。年齢にこだわらず参加の場を作る。
- ・イベントを立ち上げる（七夕会とか）ことから継続的な子ども達の間にする
- ・子どもにはゴール設定がモチベーションになる。

【参加者の発見】

- ・つながり。イベントへの出場や協力依頼など、新たな連携が生まれそう。（岩園町→イキイキ健康講座、ハウオリポリネシアンスタジオ、すずらんコーラスなど）
- ・プロッキーは裏移りしないペンであること！

【担当者の振り返り】

- ・参加者数はまずまずの集まりだった。→広報をさらに工夫して、新しい人にも参加してもらいやすい仕掛けにする。
- ・テーマ設定については課題の収斂に少し難しい点があって、取り上げにくい課題があまり議論されず残ってしまった。→放置せず、次回の論点として取り上げる工夫する。
- ・定員以下だったが、部屋が狭く感じられ、動きにくかった。→会議室 C へ変更する。
- ・名刺や自団体のリーフレットなど広報用のツールをもってきてもらうのを告知していなかった。(実際には名刺交換できたが) →告知の中を含める。
- ・チラシの表の電話番号が間違っていた!!! →修正する。
- ・お菓子が不足してしまった。以外にもなくなり早かった。→参加者の様子みて次回増やす。



第2回「私の悩みとあなたのヒント」情報交換・団体交流会 振り返り・報告

- 1 日時：平成27年9月12日(土) 10時から12時05分
- 2 会場：リードあしや会議室 C
- 3 参加者数：8名(7団体) *欠席5名(2団体)
- 4 内容：自団体・自己紹介、課題の共有、解決のアイデア交換、振り返り

	出された課題	解決のアイデア
1 組織の問題 (顧客との関係づくり)	・会員・メンバー間のコミュニケーションがうまくいっていない ・会員の固定化、高齢化 ・どの程度のペースで会合を開いたらいいのか(コアメンバー間) ・ボランティアをどのように集めるのか(中間支援組織を通じた広報、家族の動員でしのいでいるが、もっと幅広く集めたい)	・基本的には顔を合わせるのがベース。団体の事業規模によるが、定例的に会うこと、日常にはメールなどでこまめにコミュニケーションをとること。 ・魅力的な活動で人を引き付ける。

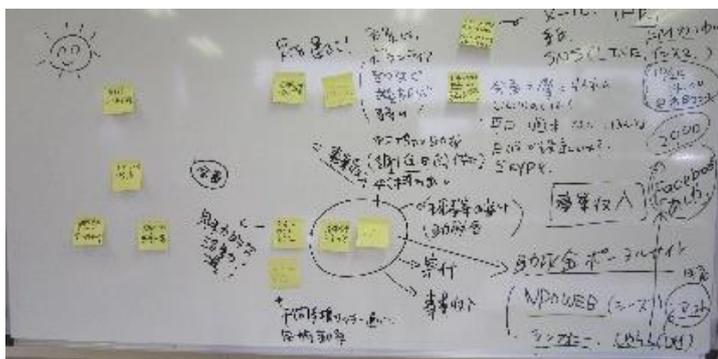
2 財源の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・運営資金の集め方 ・助成金の選び方のコツ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業収入のアップ、多様な財源の開拓 (NPO の特徴) ・助成金情報はポータルサイトで。(ひょうごボランティア、NPOWEB など)
3 協働・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・協働できる団体との出会い方 ・多文化の民族舞踊を披露してくれる人を探したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体と出会う機会があれば足を運ぶ。顔の見える関係づくり。 ・Step by Step は cool kids と。
4 広報ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション、広報手段としてなにがよいか ・ホームページの立ち上げをしたがいどこに相談すれば 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内部は直接顔を合わせてミーティングが基本、日常的な連絡はメール、ペーパー、SNS を団体の規模と事業内容に合わせて。 ・外部とのコミュニケーションは、HP、紙媒体、など。 ・HP の立ち上げは専門の NPO があるので相談できる。(しゃらく、FM わいわい)
5 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局能力 (コミュニケーション能力など) ※個人情報保護などの個別のテーマについて外部の研修を受けていたが市との交渉、事務処理など問題がある。 ・活動と仕事の兼ね合い (時間をどのようにやりくりするか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の講師から知識を学ぶことも一つの方法だが、内部で振り返り、掘り下げることもコーディネーターの力量を高めるのには効果的。 ・活動日を多様にしてできるだけ幅広い世代に参加してもらえるように工夫する、活動記録を共有すること、たとえば活動をしばらく休んでもいつでも復活できるような組織文化づくりをすることなど。

【参加者が得られたこと】

- ・参加団体同士のつながりができた。Step by Step と Cool kids Club。
- ・それぞれの団体の経験を教え合い、自団体の課題解決のヒントにつながった。
- ・自団体の PR の場になった。

【担当者の振り返り】

- ・連絡なく当日来られなかった団体が1つ(3名)、連絡あったものの当日の欠席が1団体(2名)あり。一つの団体から複数の人の参加申込があった場合、当日の運営に困る。→(チーム分けの想定)突然人数が大きく変わっても運営できる準備をしておくことが必要。
- ・団体資料を事前に持参してもらったのがよかった。あとで団体にコンタクトを取りたい場合に便利。→次回も継続



第3回「私の悩みとあなたのヒント」情報交換・団体交流会 振り返り・報告

日時：2015年(平成27年)12月5日(土)10時から12時10分

会場：リードあしや会議室C

参加者数：8名(8団体)

内容：●自団体・自己紹介 ●課題の共有 ●解決のアイデア交換 ●振り返り

	出された課題	解決のアイデア
1人、後継者	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの高齢化 ・ITに強いスタッフ、外国人講師の確保 ・若手スタッフの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学に声をかける ・イベント時に必ず案内を ・子ども対象にするとその保護者が付き添いでくる ・ボランティア活動の内容、時間を明確化して関わりやすくする ・定年制を設ける ・選挙によるリーダー選出 ・後継者がいなければ団体の活

		動停止
2 コミュニケーション、広報	<ul style="list-style-type: none"> ・メールに頼ると摩擦が起こりやすい。 ・共有化されにくい問題 ・大阪で活動してきた芦屋にも活動を広げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象によって媒体を選ぶ ・マスメディア、ケーブルテレビ、コミュニティFMの活用 ・メールのマナーを意識 ・広報の工夫
3 財源	<ul style="list-style-type: none"> ・運営資金 ・寄付をしてまで関わるのは難しいという人も 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業性のあるものと、対価性が乏しいが社会的にニーズが高いものを分けて考える ・ボランティアできる範囲にとどめるという考え方もあり
4 ネットワーキング	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体との連携の仕方（複数の団体とどのように協働すれば） 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の団体と協働する仕組みづくり ・公民館、中学校と直接先生を通じてつながる
5 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・場所（活動拠点、事務備品の置き場、等） ・継続性。無償でどこまでできるか。 ・地縁組織の問題（地縁組織内で細かく分かれた団体の統一性をどうはかるか） 	

【参加者の感想】

- ・参加団体同士で新たなコラボレーションができそう
- ・活動に役立つ情報を得られた

【担当者の振り返り】

- ・自己紹介の際に、自団体の活動の中でよかったことうれしいと思ったことを上げてもらいアイスブレイクにつなげた。次回も続ける。
- ・毎回参加の団体と、新たに参加する団体と半々ぐらいだった。固定化してしまわないように、もう少し下の年齢層の人々にも参加してもらえるように工夫をしたい。

第4回「私の悩みとあなたのヒント」情報交換・団体交流会 振り返り・報告

日時：2016年（平成28年）3月5日（土）10時から12時

会場：リードあしや会議室C

参加者数：5名（5団体）（上野、大塚、田中、山口、橋野）

内容：●自団体・自己紹介 ●課題共有 ●解決のアイデア交換 ●次年度の抱負

【課題の共有と解決のアイデア】

	出された課題	解決のアイデア
①後継者	・若い人に引き継ぎたい	
②参加者を集めたい	・音楽会に参加者が集まらない。	・チラシ作成のアドバイス。参加したくなるようなキャッチコピーの工夫。 ・各戸のポスティング ・市の部署内で配架依頼（たとえば広報国際課→市民参画課）
③資金不足	・理事の持ち出しが毎年20,30万円程度発生している。	・助成金や会員増加などの工夫を
④その他	・市が広報に協力的でない	・後援名義制度などを活用して市を巻き込み広報に活用しては

【担当者の振り返り】

- ・少人数の開催となりやや寂しい状況だった。（連絡なしキャンセル3件）
- ・具体的なアイデアが提示され団体にとっては参考になったと思われる。
- ・広報の問題に焦点があたった。市民活動センター、市の各部署、といったハブになる機関をうまく活用できていない場合もある。団体単独で実施する場合は特に市に広報協力を求めるのは難しい。効果的な広報の打ち出しを検討する必要がある。また団体メンバーでできる対策も着実に実施する。この積み重ねは不可欠だと感じる。

マイナンバー制度講座 報告書

- 1 事業名：独自事業
- 2 実施日：平成27年10月29日（木曜）
- 3 担当：金子・有元
- 4 講師：増本有砂氏（総合会計業務Grオフィス・メイト代表）
萩原一男氏（社会保険労務士）
- 5 参加者：7名（当日参加1名）

6 内容について

- 1) 目的：平成 28 年度より開始されるマイナンバー制度での不安点、疑問点を解決するため。
- 2) 内容：労務と税務の両面から法人に必要な対応についての説明と個別相談対応。
- 3) 検証：ナンバーの管理の大切さ、取扱い規定等の作成、管理者、監督者を決め管理運営することを法人が一番に行はなければならない事がわかり良かったようだ。他の講座との話の違い、この制度は成功するのかなど質問もあり全体でも確認でき納得できた。
- 4) アンケート回答（セミナーを受けられていかがでしたか？）：
 - ・色々なところでマイナンバー研修等が開催されたが、身近なところで参加できて有難かった。マイナンバー制度が始まってからの研修等があれば又参加したい。
 - ・制度の背景と必要性はわかった。法人、個人管理による税金取り立ての精度向上、それに伴う事務量の増大など功罪の整理をしていただけたらと思う。
 - ・個人と法人の両方に関われるので参加した。給与、講師料を払う立場で、個人番号を提出して下さいとお願いしているが、数年は拒否に近い態度の方が。その善処方法について、講師の方に聞いたが今後法令で罰則までいくことがあるのかどうか。
- 5) 今後の展望：マイナンバー制度が開始され、新たな疑問や不安も出てくると思われる為、アンケートにもあるように、制度開始後、研修などを開催していきたい。



あしや秋まつりのボランティアコーディネート報告書

- 1 事業名：第27回あしや秋祭り
- 2 実施日：平成27年10月11日（日曜）
- 3 担 当：金子 美保
- 4 会 場：精道小学校グラウンド
- 5 主 催：あしや秋祭り協議会
- 6 参加者：13名（当日参加1名）
- 7 内容について
 - 1) 目的：ボランティアによるゴミ収集等、参加者が気持ちよくきれいに祭りを楽しむために、コーディネーションをする。
 - 2) 内容：駐輪場の整理、会場の清掃（ゴミ収集）
 - 3) 検証：以下、ボランティア参加者とコーディネーターの意見をまとめた。

意見	対策
駐輪場に子供達が走り回っていて危ない。	駐輪場警備者に注意を促すよう徹底する。
ゴミ分別表示が見えにくく、分別が出来てなかった。	ゴミ分別の表示を見やすく立て看板等にする。
ペットボトル分別を正しくする。	ゴミ分別を芦屋市と同様にする。
ボランティア募集や、作業時間、当日の動きが伝わってこない。	主催側との事前打ち合わせに参加する。
ゴミ収集方法、準備物の変更を聞いておらず当日の対処に困った。	内容の変更など連絡を密にとる。
まつり参加者からの店舗や商品の問い合わせが多かったが、本部担当が見当たらず対処に困った。	本部テント内に全体の配置図（店の配置と販売品が一目でわかる）があるとよい。